

IPv6サービスロゴの技術検討強化 のための募集について

2010年2月18日

IPv4アドレス枯渇対応タスクフォース サービスロゴWG主査
寺田 昭彦

IPv6サービスロゴの次期Stepへ



1. IPv6サービスロゴとは

IPv6サービスロゴ: IPv6に対応したサービスにロゴを付与し、IPv6の利用促進を図る仕組み

- ・サービスロゴStep1: IPv6対応に必要な最低限の技術要件を定めたもの
- ・サービスロゴStep2: 調達仕様としても活用可能な技術要件を定めたもの

2. 現サービスロゴWGの限界

- ・現状のサービスロゴWGでは、ISP、Web、iDCのStep1について検討。またISPのStep2についても検討の方向性までは整理した。
- ・しかし、サービス関係、端末関係の人が中心であり、技術的な検討が今後の課題となっている。

3. メンバ募集

- ・今後は、IPv6サービスロゴの次期Stepに向けた技術要件の抽出と検討結果のIPv6 Enabled Logo Steering Groupへの提案活動に重点を置いた活動を行なう必要がある。
- ・このため、技術的な検討を行なえる人を募集して、新たな検討チームを発足させ、体制を強化することとしたい。(従来メンバの継続参加も願います)

技術検討SWGメンバーの募集



1. 目的: IPv6 Enabled Logo Programへの提案を目指したISP及びiDC等の技術要件提案の作成
2. 検討内容:
 - ・ISP: IPv6化を行うISPに共通する技術要件の抽出と、まとめ
 - ・iDC, ASP, CSP: IPv6対応に必要な最低限の技術要件抽出と、まとめ
3. 活動期間:
 - ・2010年4月～6月: Discussion、技術要件抽出
 - ・2010年7月～9月: 文書化、まとめ
4. 募集要件: ①ISP又は、iDC、ASP、CSPの構築・運用技術に詳しい方。
IPv6の評価経験もしくは運用経験のある方歓迎します。
②月2回の会議に少なくとも1回は出席可能な方
5. 募集期間: 2010年2月～3月末
6. 申込先 & 問合せ先:
a.terada@jate.or.jp 又は
suganuma@avis.ad.jp

SWGの体制のイメージ



1. 位置付け: “IPv4アドレス枯渇対応タスクフォース サービスロゴWG”内の技術検討SWGとする。
2. WG名: 「IPv6サービスロゴ技術検討WG」
3. 体制:
 - 主査: 川村さん
 - 副主査: 菅沼さん、宮田さん
 - 事務局: 津国さん、寺田さん
4. サービスロゴWGとの関係:
 - 次ページの「サービスロゴ検討結果と今後の展開」を参照

IPv6サービスロゴ検討結果と今後の展開

今後の展開の
方向
(SWGは一部を実施)

項目	細分	要求仕様書		現在までのWG成果(※)	今後の対応
		Step-1 (最低限の条件)	Step-2 (調達仕様相当)		
インターネットサービス等	インターネット接続サービス	有り	計画有り	<ul style="list-style-type: none"> ・Step1の条件の改善提案を実施 ・調達仕様にも適用できるような仕様としてStep2の要求条件の方向案を作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・Step2の要求条件について、技術的・運用的な観点から議論・詳細化を行い、国際会議へ提案する。(参考2)
	ホスティングサービス	未 (検討計画には入っている)	未	<ul style="list-style-type: none"> ・仕様案を作成 	<ul style="list-style-type: none"> 仕様案を再検討の上、国際会議へ提案する。(参考3)
	DNSサービス	未	未	<ul style="list-style-type: none"> ・レジストリ自体のIPv6対応は完了していることが分かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要により国際会議で議論を行う。
	IXサービス	未	未	<ul style="list-style-type: none"> ・主要なIXは、IPv6対応が完了していることが分かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要により国際会議で議論を行う。
Webページ		有り	計画有り	Step1の改善提案を実施	<ul style="list-style-type: none"> ・必要により国際会議で議論を行う。

※これまでの取組みの全体の詳細は、参考1を参照

IPv6サービスロゴの検討状況



項目	細分	基本指針	検討活動	結果
インターネットサービス等	インターネット接続サービス	①IPv6インターネットへの到達性が確保されていること	<ul style="list-style-type: none"> ・IPv6 enabled ISP Logoとして、2009年6月22日にProgramがスタートしたため、改善案を検討。 ・国際会議に、改善案の提案とスクリプトのアルゴリズムの公開を提案 ・Step2の検討の方向性を整理 	IPv6 Forumで下記について実現 <ul style="list-style-type: none"> ・Logoスクリプトの公開 ・Dynamic LogoのOption化 (参考1-1)
	ホスティングサービス	②サーバーへのIPv6による到達性が確保されていること	<ul style="list-style-type: none"> ・IDCについて、要求仕様の検討を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・仕様案を作成。
	DNSサービス	③IPv6アドレスブロックを保有していること	<ul style="list-style-type: none"> ・DNS(レジストリ)について、実態調査を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・レジストリ自体のIPv6対応は完了しているが、IPv6登録に対応できていないレジストラ(ISP)がまだ多数存在することが分かった。
	IXサービス		<ul style="list-style-type: none"> ・IXについて、実態調査を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・主要なIXは、IPv6対応が完了していることが分かった。
Webページ			<ul style="list-style-type: none"> ・IPv6 enabled WWW Logoとして、2009年6月8日にProgramがスタートしたため、改善案を検討。 ・国際会議に、改善案の提案とスクリプトのアルゴリズムの公開とDyanamic LogoのOption化を提案 	IPv6 Forumで下記について実現 <ul style="list-style-type: none"> ・Logoスクリプトの公開 ・Dynamic LogoのOption化 (参考1-1)

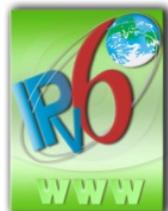
IPv6 Enabled Logo Program概要

《IPv6 Enabled Programとは》

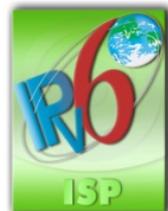
- “IPv6に対応しているサービス”にロゴを付け、IPv6の利用促進を図ることが目的
- 基本はサービスを自己確認して、登録する仕組み
- WWWとISPからスタート(2009年6月)し、順次拡大予定
- Programの推進のために、IPv6 ForumにIPv6 enabled Steering Group新設
- 総務省 基本指針との関係について評価した結果、基本的には同じであるとサービスロゴWGで判断し、日本としてもEnabled Logoの普及を図ることになった
- 2009年9月よりJATEのホームページで、翻訳情報を掲載し、登録の支援を開始

《ロゴマーク》

- 登録状況は参考1-2を参照
- <http://ipv6ready.jate.or.jp/enabled/> を参照。



Webページの
ロゴ

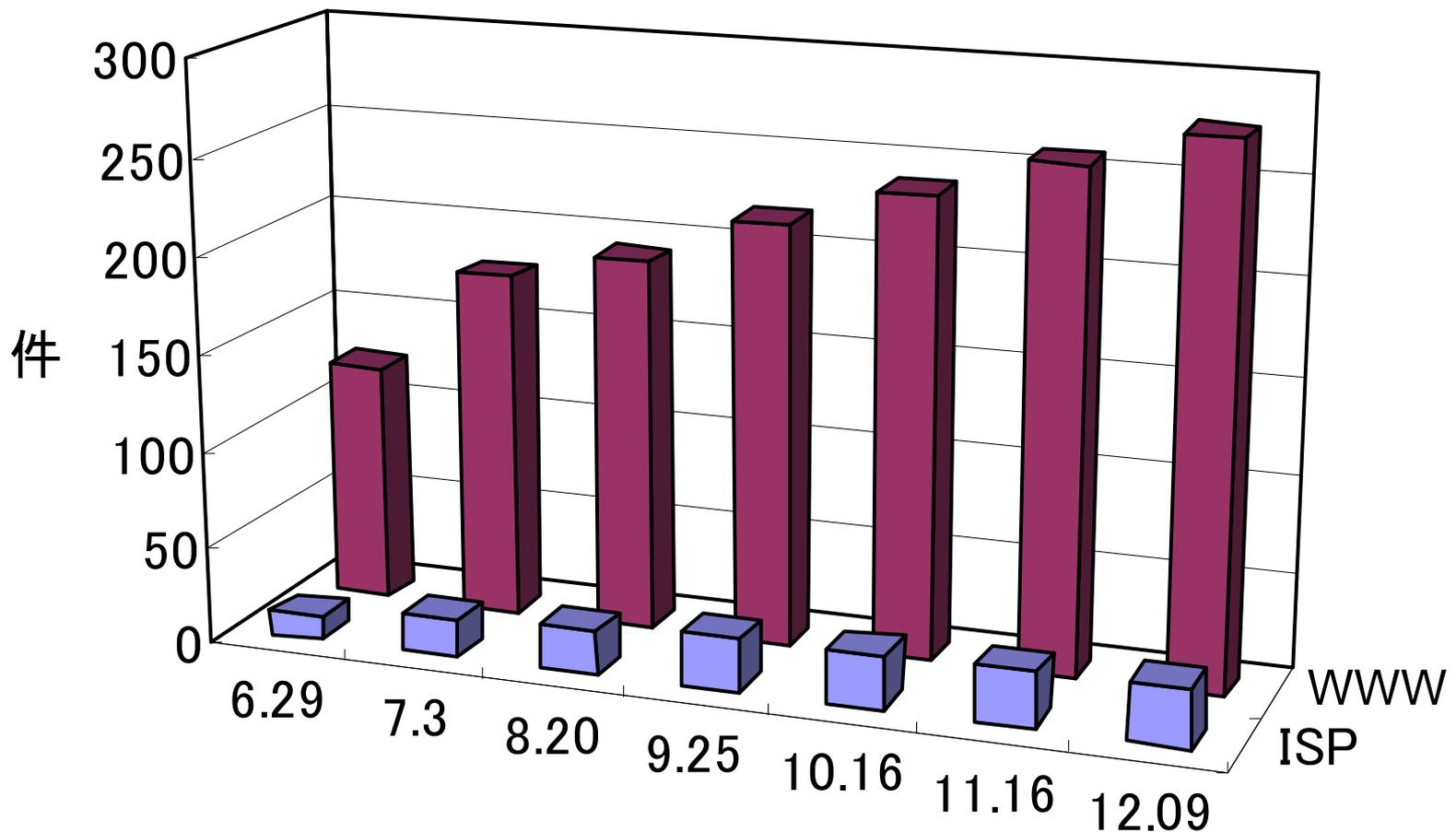


ISPサービスの
ロゴ

Enabled Logoの伸び

Enabled Logoの伸び

2009.12.09現在



【次のステップの狙い】

- ISPが提供するエンドユーザ向けサービスを対象に、最小レベルのサービス内容の提供の確認と、各ISPで共通の仕様諸元(Specification)の表示が有効であると考えられる。

【仕様検討の方向性】 ⇒ これらを“技術要件”として整理する。(今後の作業)

① 最小限のサービス提供を保証する

- エンドユーザに提供されるサービス内容： メール、DNS、プレフィックス、DHCPv6-PD、など
 - ISP内部の構成： MTU 1280バイトの通過、NATの介入無し、など
- ⇒ 基準を策定し、その基準を満たしていることを条件とする。
- ⇒ 家庭向けサービス、企業向けサービスで条件を分ける。
- ⇒ サービスの特性上、一部の条件を満たさない場合はその表記を義務づける。

② サービスの提供方法について共通的な表示を行う

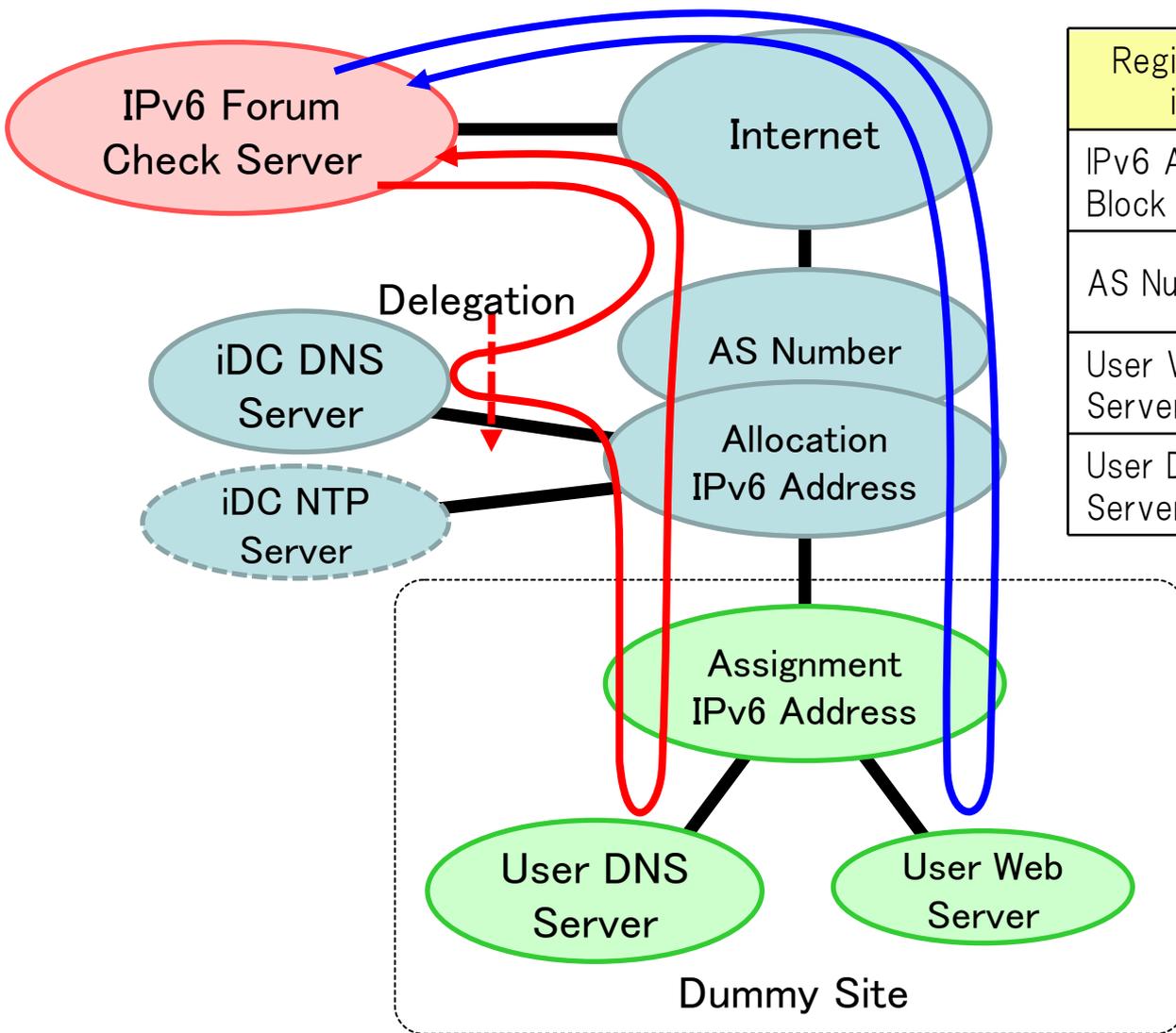
- 接続形態(ネイティブ、トンネル、PPPoEなど)、プレフィックス(固定/非固定など)、DNSトランスポート(IPv4/IPv6、IPv6のみ、など)
- ⇒ IPv6利用に必要な最小限の仕様表記内容を策定し、その表記を行うことを条件とする。
- ⇒ 一部のオプションについても、仕様表記内容に従って表示することを条件とする。

③ IPv6インターネットへの接続性、接続性能の計測手法の共通化。

- IPv6インターネットへの接続性(DNS、Multihome、など)
- 接続性能の計測手法(MTUの設定値の表記、測定ポイントとの関係、など)
- ISPの独自性能の表示については妨げない

iDC Logo Diagram(提案の案)

⇒ ASP,CSPも含めて再検討し、整理する。(今後の作業)



Registration item	Registration information
IPv6 Address Block	Assigned IPv6 address bloc
AS Number	AS number of allocated IPv6 address block
User Web Server	FQDN of Server
User DNS Server	IPv6 Address of Server

IPv6 Web Access



IPv6 Reverse DNS Access

